



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL <https://www.tonyamachi.com> E-mail info@tonyamachi.com 発行/2023年1月1日

おかげさまで55周年

新謹賀年

新年あけましておめでとーございませう。



理事長

西 秀 記

2023年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ると、2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻によって世界的にサプライチェーンが大きな影響を受け、これにより原油高、物価高が急速に進み、あわせて円安も進行するなど家計や企業に深刻な影響を及ぼしました。国内経済では、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進み、経済活動についても徐々に回復がみられておりますが、物価高騰による消費の不振などもあり予断の許さない状況が続いております。このような状況のもと当組合は、昨年10月23日に組合創立55周年を迎えることができました。組合員並びに関係各位のこれまでのご支援ご指導に深く感謝申し上げます。

組合の最重要課題であります団地再整備事業では、新規加入4社、土地買増1社、撤退1社となり、コロナ禍の中でも堅調な団地運営を行うことができました。インフラ再整備事業では、2020年度から取り組んだ卸商業団地機能向上支援事業の調査結果を受け、経年劣化している問屋町地区の歩道及び街路樹を再整備するためにインフラ再整備推進特別委員会を設置し、行政と共に具体的な整備方針の検討に着手しました。

新型コロナウイルス対策では、昨年度に引き続き、職域ワクチン接種を実施し、組合員をはじめ関連企業や市内大学等にも広く案内したところ、3回目となる5月には2千人、4回目の11月には1千3百人の方々に利用いただきワクチンの早期接種に貢献することができました。

新たな取り組みでは、組合員企業の人材確保及び若者の地元定着を支援するため他業種連携型の間屋町版インターンシップを実施し、様々な業種が集積する卸団地の特性を活かした5日間のインターンシップで、企業と大学生の交流機会を創出することができました。

また、2021年度から取り組んでいるSDGs推進事業では、組合ホームページへのSDGs専用ページ開設やリーフレットの作成、普及啓発セミナーの開催などで組合員への啓蒙活動を行った結果、問屋町SDGs宣言を行った組合員が44社となりました。

さて本年の当組合は、最重要課題である団地再整備事業にしっかりと取り組みつつ、コロナ対策を講じたうえで昨年以上にレクリエーションやコミュニケーション事業の充実を図ります。組合員と共にSDGsの推進にも取り組むほか、地域社会への貢献活動等も行いながら、ウイズコロナに対応した持続可能な団地運営を図ります。

本年が、組合員の更なる発展と飛躍の一年となりますことを心から祈念申し上げます。

新規組合員の加入など承認

第8回理事会

12月22日(木)に第8回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。主な案件審議は次のとおり。

案件一、問屋町ビジネススクール運営委員会からの意見について

2023年度のカリキュラムが承認された。
案件二、組合施設の賃貸並びに新規組合員の加入について
案件三、組合員跡地買取資金の借換について

がんリスク早期発見サービスなど紹介

組合員昼食会

組合員昼食会が12月8日(木)に問屋町会館2階大会議室で開催され、組合員ら48名が参加した。

昼食会では、はじめに青森市経済部新ビジネス支援課が副業・兼業人材の活用方法について説明した。

次に、全国健康保険協会青森支部の高田企画総務グループ長が協会けんぽの健康宣言等について紹介。同制度は2022年度現在で県内企業約2000社が宣言し、県内で

働く4人に1人が健康経営に関わっていると話した。つづいて組合員(株)ヒグチの大塚課長が、線虫を利用した早期がんのリスク検知サービス



組合員昼食会

忘年会で交流促進

同友会・青友会

青森問屋町経営同友会が、忘年会を兼ねた第34回会員交流会を11月29日(火)にアイトホテル青森で開催した。会員ら28名が参加した交流会では、初めにダイエットグ



同友会 会員交流会

ランプリ2022の測定会を実施。その後、サイコロを使った全員参加のゲームなどを楽しみ、会は大いに盛り上がり

問屋町支店長・所長連絡会(青友会)でも第31回親睦交流会を12月15日(木)にレストランラヴィで開催し、同会



柳谷会長(左)がゲーム優勝者に賞品贈呈

青友会の佐々木会長によるあいさつの後、石戸谷幹事による乾杯の音頭で会はスタート。余興として「りんご4種類」の食べくらべゲームを実施し、正解が発表される毎に歓喜と落胆の声に包まれ会場は大いに賑わった。最後は松田幹事の中締めで1年の活動を締めくくった。



青友会 親睦交流会

業務報告

主要事項

12月2日▽問屋町納税貯蓄組合第

スについてPRした。「NIN OSE(エヌノーズ)」と呼ばれるこのサービスは、線虫が尿の中のがんの匂いを嗅ぎ分ける性質を利用した世界初のサービス。尿を取って送るだけで15種類のがんリスクが判定でき、ステージ0や1のがんにも反応するすぐれもの。最後に事務局が、2月に開催予定のQOL健診について参加を呼びかけた。

- 52 回定例会
- ▽第46回問屋町ボウリング大会(2日目)
- 7日▽第2回献血
- ▽第2回税務研修会
- 8日▽組合員昼食会
- ▽第15回フラワーアレンジメント教室(男女不問)
- 9日▽第46回問屋町ボウリング大会表彰式
- 15日▽金融審査会
- ▽問屋町支店長・所長連絡会第31回親睦交流会
- 16日▽第1回問屋町ビジネススクール運営委員会
- 22日▽第1回インフラ再整備推進ワーキング委員会
- ▽第8回理事会

年末調整について学ぶ

第2回税務研修会

12月7日(水)に問屋町会館1階会議室において第2回税務研修会が開催された。青森法人会と共催で開催された研修会では青森税務署の田代

審理専門官が講師を務め、組合員従業員ら13名が参加。毎年この時期、経理担当者の頭を悩ませる年末調整について学んだ。

田代専門官は「給与所得者の保険料控除申請書に添付または提示することとされている控除証明書について、令和4年10月1日以後に提出する申告書からは電子データ等による提供ができるようになった」と昨年との変更点について紹介。また、令和5年分



税務研修会

ら適用される国外居住親族の扶養控除等の改正について技能修習生を受け入れている企業は、控除の必要要件が変更となるので注意が必要と説明した。研修ではそのほか、少額資産の特例についても学んだ。

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

青森問屋町配送(株)

代表取締役 西 秀記
常務取締役 赤坂 晃

北日本流通ヴァン(株)

代表取締役 西 秀記
取締役副社長 川崎 益美
専務取締役 赤坂 晃
常務取締役 森山 慶一

新年のメッセージ

協青森総合卸センター事務局職員



専務理事
赤坂 晃
青森間屋町配送係業務取締役

昨年は、有事の勃発で世界中が混乱しました。そのような中、専務理事の大役をおおせつかることになり、約半年間は地に足がつかない状況でした。
今年こそは、4年ぶりに大曲花火大会に絶対行きます。
組合員皆様のご発展を心から祈りいたします。



業務部長
小田切 勇治

マラソンに初挑戦した2022年。距離は10キロですが、完走した後の達成感とビールが最幸でした。
今年もおおもり桜マラソンとアップルマラソンを目標に、メタボ予防も兼ねてランニングに励みたいと思います！



業務課長
西田 一実

最近2歳の息子と遊ぶと私が先にダウンし、体力の衰えを痛感しています。
今年50にして天命を知る。私の「天命」は何でしょう？



総務課長
成田 賀子

病めでまね。五十肩だと思っただけ。腱板断裂。手術決定。とだんだん病氣と薬の話題が絶えない年齢に・・・
今年はいっそう津軽弁に磨きをかけ生誕50周年を楽しむじや。



総務課長代理
五十嵐 敦

今年順調にいくと新たな家族が2人増える予定です。慌ただしい1年になると思いますが、元気に生まれ育っていくことを願いながら、仕事とパパ業との両立に頑張りたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願いいたします！



業務部主事
春山 心仁

昨年は趣味の釣りから遠のいてしまった代わりに、ゴルフとランニングに挑戦しました。
長続きするかはわかりませんが、本年も健康的な生活を送りたいと思います。



業務部書記
堀内 大暉

昨年は9月に眉間を4針縫い、12月の初めには車が雪にはまって3時間動けなくなる、という重めの厄が降りかかった年でした。
大厄の波は終わりがなという雰囲気か漂っていますが、油断せず今年も過ごしていきます。



総務部主幹
田中 静香

昨年は引越し、ロシアのウクライナ侵攻、老猫介護、安倍元首相暗殺、まるかじりウォーク、未曾有の円安、国内経済視察会と怒涛の一年でした。
本年は組合員の皆様と共に心穏やかに過ごせますことを祈願いたします。



総務部主査
鎌田 綾野

昨年は保育園の休園等が多く、益々コロナを身近で感じるようになりました。そんな中でも2人の育児に追われ気が付けば新年を迎えております。



総務部主事
鶴谷 優子

昨年は砂糖・小麦粉・卵・乳製品を使わないロースイーツという体に良いお菓子があることを知り、よく作って食べるようになりました。今は資格取得に向けて頑張っています。
今後はより健康に気を付けていきたいです。



総務部書記
伊藤 舞

昨年は初めて挑戦したふるさと納税や外出する機会が増えたことで、美味しいものをたくさん食べることができた一年でした。
今年も家にこもらず、出歩くことが目標です。仕事もプライベートも充実した、良い一年にしたいと思っています。



郵便局窓口担当
葛西 友紀

簡易郵便局担当になって約1年半が経ちました。現在は産休を取り、双子出産＆育児に向けて勉強の日々です。
常に学ぶ事を怠らず、ピョンピョン飛躍の年になるように、そして、どうやって若返るかに頑張っていきたいと思っています。



郵便局パート
齋藤 誠治

12月から簡易郵便局担当になりました。覚えることも多く、日々業務に追われております。
まだまだ分からないことも多く、ご迷惑をお掛けすることと思いますが、よりよいサービスを提供できるよう精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。



間屋町交流ストアパート
成田 あすか

昨年は、コロナ禍に値上げラッシュが仲間入りし、懐的にはかなりのダメージを負った一年でした。
今年もこのダメージが継続することなので、趣味以外には財布の紐を締めて一年過ごそうと思っています。



間屋町交流ストアパート
門間 由紀子

昨年まではコロナ禍で遠出を控えていましたが、久々遠出をした際は体力の衰えを痛感してしまいました。
今年ウォーキングやステップ台で体を動かすなど新しいことにチャレンジして体力づくりを行っていきます。



青森間屋町配送係業務部長
佐藤 博善

昨年は、組合員の皆様をはじめ多くの方々にお世話になりました。ありがとうございます。
私自身、昨年1年、もの凄く早く感じました。
コロナ騒ぎも何か、緩くなりつつありますが、気を引き締めて過ごしていきたいと思います。
最後に、2023年(令和5年卯年)が皆様にとって良い年でありますよう祈念いたします。



2023年 withコロナに対応した持続可能な 団地運営を目指す

**Withコロナに向けて
感染対策と組合活性化の両立に
向けた仕組みづくり**

新型コロナウイルスの国内感染状況は収束を見せず、今も新たな陽性者の発生が続いている。その中、政府は昨年9月に、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立をより強固なものとしたwithコロナに向けた新たな段階に移行するとした。

組合では昨年3回目、4回目のワクチン職域接種を実施して安心・安全な職場環境整備や経済活動の早期回復に寄与した。一方、組合員新年会や通常総会後の懇親会の開催、外郭団体の交流会や各種レクリエーション事業も復活

させ、コロナ対策をしっかりと講じながら団地内での交流を促進させてきた。

2023年の組合は、withコロナに向けた対応として、組合員との接点を強化すべく各種デジタルツールの活用を検討する。組合員の安心・安全を第一に考えて感染予防対策に取り組みながら組合事業を積極的に推し進め、卸団地の活性化を図り、持続可能な団地運営を目指す。

**インフラ再整備
街路樹を含む歩道整備の実施に
向けた具体策を検討**

卸団地のインフラ再整備に向けた調査事業が一昨年で終了し、昨年から具体策の検



同友会・青友会合同交流会

組合では2021年を青森総合卸センターの「SDGs元年」と位置づけ、SDGsに積極的に取り組み始めた。組合員に対する働きかけとして、まずはSDGsへの認知から着手。PR看板の設置やSDGsバッジの無料配付及び販売、各種案内書には関連

**持続可能な社会を目指して
SDGsの理念を踏まえた組合
事業推進**

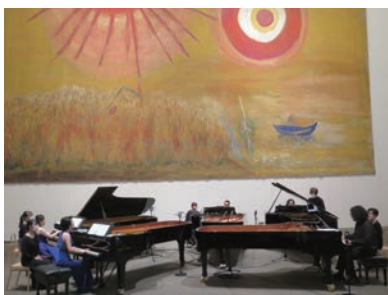


委員会を設置して具体策検討

討に入った。インフラ再整備推進特別委員会を設置して歩道の整備や街路樹の取扱い、青森市と組合のパートナーシップでの整備実施などを協議。2023年度中を目標として具体的な対応策を策定し、2024年度以降の整備実施へつなげていく。

また、路面の損傷が顕著な問屋町地区の車道については市に対して早期対応を強く要望し続けるほか、経年劣化が進んでいる組合管理物件については計画的なメンテナンスを実施して長寿命化を図る。

このような取り組みの結果、SDGsと自社事業や既存の取り組みとの関連を理解してもらったために創設した「問屋町SDGs宣言」には44社の申請があり、普及啓発の進展が目に見える形で現れている。



県立美術館ピアノコンサートを協賛

2023年も卸団地のスケールメリットを活かし、組合員とも連携してSDGs 17のゴールに貢献する事業に積極的に取り組んでいく。



街頭指導で安全運転を呼びかけ

**安心・安全なまちづくり
人に焦点を当てた交通安全啓発
活動で事故を未然に防ぐ**

昨年6月に問屋町内交通死亡事故ゼロ9千日を達成した。足かけ26年をかけてたどり着いた記録は誇るべきものであり、今後も継続していかなければならない。

問屋町内での事故撲滅に向けて、これまで関係機関の協力を得て様々なハード面での対策が講じられてきた。しかし、事故を未然に防ぐためには、運転技術、認知、判断、周囲に対する思いやりといった、人の能力を高めていくことが重要だと考える。

そこで2023年は人に焦点を当て、安全運転意識向上を目指した活動に取り組む。特に問屋町に隣接する事故多発交差点における青森中央IC前交差点においては、実験的に街頭指導を実施してドライバーに安全運転を呼びかける。

組合では引き続き、安心・安全なまちづくり実現に向けて活動を続ける。